

積算協会のPCM (Project Cost Management) シリーズ

Ⅱ

---

# 建築積算士ガイドブック

この本一冊で理解できる  
建築積算のガイドブック決定版！

# Contents

---

## はじめに 建築積算士について

---

<b>1</b>	建築積算とは	2
1.1	建築積算の定義	2
1.2	建築積算の目的	3
1.3	建築積算の役割	4
1.4	建築積算の活動領域	4
1.5	建築積算技術者の倫理観	5
<b>2</b>	建設産業について	10
2.1	建設産業の特徴	10
2.2	建設産業の変遷と現状	12
2.3	建築生産プロセスとコストマネジメント	15
<b>3</b>	工事の発注・契約	22
3.1	発注方式	22
3.2	発注単位	24
3.3	契約選定方式の種類	26
3.4	契約方式	28
3.5	数量公開	29
<b>4</b>	設計図書	32
4.1	設計図書の構成	32
4.2	設計図書の優先順位	36
<b>5</b>	工事費の構成	38
5.1	工事費種目	38
5.2	工事費の構成比率	43
5.3	単価の種類	44
5.4	仮設工事の単価	47
<b>6</b>	建築積算業務の実際	50
6.1	建築積算業務の流れ	50
6.2	土工	51
6.3	地業	58
6.4	躯体（コンクリート・型枠・鉄筋）	61
6.5	鉄骨	83

6.6	仕上	112
6.7	外部仕上	116
6.8	内部仕上	129
6.9	開口部	141
6.10	間仕切下地	144
6.11	内外装仕上の工種ごとの解説	145
6.12	仮設	152
6.13	屋外施設等	160
6.14	設備の積算	167
6.15	内訳書の作成	176
6.16	値入業務	180
6.17	概算	194
<b>7</b>	<b>建築数量積算基準</b>	<b>202</b>
7.1	基準の目的	202
7.2	基準の構成	203
7.3	基準で決めていること	205
<b>8</b>	<b>内訳書標準書式</b>	<b>212</b>
8.1	内訳書とは	212
8.2	工種別内訳書標準書式	213
8.3	部分別内訳書標準書式	215
8.4	改修内訳書標準書式	216
8.5	内訳書作成上の留意点	218
<b>9</b>	<b>市場価格</b>	<b>220</b>
9.1	相場観の必要性 (コストとプライス)	220
9.2	価格情報の収集方法と分析	221
<b>10</b>	<b>チェックおよびデータ分析</b>	<b>226</b>
10.1	建築積算におけるチェック	226
10.2	歩掛りの活用	244
10.3	データの整理と分析	247
10.4	設備工事の積算チェック	256
<b>11</b>	<b>建築積算と施工技術</b>	<b>260</b>
11.1	近代建築における構造の変遷	260
11.2	構法と工法	262
11.3	標準的な施工プロセス	265
11.4	特殊構法・新技術	286

<b>12</b>	LCC (ライフサイクルコスト)	296
12.1	LCC とは	296
12.2	LCC による分析メリットの高い対象物	297
12.3	建築分野への LCC の応用	297
12.4	建築分野における LCC の目的	298
12.5	建築物 LCC の考え方	299
12.6	LCC 手法の活用	300
<b>13</b>	VE (バリューエンジニアリング)	304
13.1	VE とは	304
13.2	建設業における VE の発達	306
13.3	発注者側での VE の適用	307
13.4	設計 VE	308
13.5	受注者側の建設 VE	309
<b>14</b>	改修工事	312
14.1	はじめに	312
14.2	改修工事の特徴	314
<b>15</b>	環境とコスト	318
15.1	建築物に係る環境関連等の社会的動向	318
15.2	環境配慮計画	320
15.3	省エネ化技術の事例	322
15.4	省エネ化技術とコスト評価	324
<b>&lt;巻末資料&gt;</b>		
	建築数量積算基準	328
	監修・査読委員会・執筆者一覧	357
	参考文献	358

---

※本ガイドブックに記載されている各種事例は、読者の皆様が具体的なイメージをご理解いただけることを目的としたサンプルです。このまま実務に使用していただけるものではありません。